

セキュリティーと 電気工学の役割

おか 岡 ひさ お 久雄

三菱電機株式会社 顧問



大変な世の中になったものである。わが国はついこの間まで“Japan as No. 1”などともてはやされ、将来に対してもそれなりの期待と自信とをもつていただけに、今日のような不安と混迷とが続く状況を見るにつけて、何故かくも急速にこのような凋落がもたらされたのか、考えこまざるを得ない。

一言で言うなれば、それはわが国の各界各層における油断であり、セキュリティー不足に起因しているように思えてならない。確かに敗戦直後の廃墟の中から立上り官民あげての国民的努力が今日の国の豊かさを築き上げてきたことは間違いないが、言わば米国の庇護の下で平和が維持され、途中幾度かの経済危機はあったものの、全体の流れとして余りにも順調に推移してきたため、いわゆる平和ぼけ、その上バブル時代の欲ぼけが重なり、急速にして厳しい時代変革に対する各界の対応に手抜かりがあったのではないか。

21世紀後半に驚くべき勢いで発達してきた情報技術は、政治、経済を始め多くの社会の仕組みや人間生活にも大きな影響を及ぼしているが、今後のハード面、ソフト面での一層の進歩に対し、人間社会の制度や機能をどうマッチさせていくのかが真剣に問われてきた。情報化の進展は確かに地球全体の人間社会に公平に情報をもたらすはずであるが、進歩の速度が大きいために、却って国や地域、あるいは企業や個人間での情報格差が拡大されてきた。

今日のわが国の金融界の凋落、それに伴なう産業経済の萎縮などは、おそらく国際金融市场における情報戦の敗北によって起こされたものと見てならない。過去に安住したわが国の金融界や一部産業界では、高度な情報システムの構築に遅れたため、既にそれらを駆使する海外のヘッジファンドなどの格好の餌食となつたに違いない。情報機能の高度化は国家にとっても、企業にとっても今後ますます重要なセキュリティーなのである。

また、急速に迫ってくる地球有限性の現実に、人類同志そして人類と自然とをどううまく共生させていくのか、そのための新しい巧みにして勇気ある方策の創出が真剣に問

いつづけられてきた。人口急増とそれに伴なう生産、消費そして廃棄物の急増は、資源、エネルギー源の枯渇問題を惹起するばかりでなく、かけがえのない地球の環境悪化をもたらすことは今や人類全体の大きな問題である。とりわけ無資源国に近いわが国では、エネルギー環境問題はもっとも重要なセキュリティー問題である。今日では比較的低価格で安定確保できている石油であるが、いつの日か国際的な取り合い、それに伴なう価格急騰が起こると予想される。その様な事態になる前にいかにしても、石油代替エネルギーとしての原子力発電や再生可能な新エネルギーの地位確保と経済性確立、それと共に徹底した省エネルギー方策の普及浸透を遂行することが不可欠である。

つい先頃、北朝鮮が打ち上げた人工衛星（ミサイル？）が何の予告もなく日本上空を通過し太平洋上に落下した。これまで大方の国民が考えてもいなかつた万が一の外国からの攻撃について、改めてその防衛対策が問われている。要するに、日常不断の高度な監視と緊急即時防衛体制の充実を急ぐ論議が盛んになっている。

科学技術は確かに人類社会を豊かにしたが、その余りにも急速な進歩が却って人類社会を脅かす様相を持つようになってきた。これから地球時代ではむしろ科学技術は、いま人類社会が早急に解決しなければならない多くの課題を解決する手段として有効に活用されなければならない。今や科学技術は人類社会全体にとっても、また国家にとっても将来の存続や繁栄の維持に対するもっとも強力にして有望なセキュリティー手段を提供するものである。

中でも電気工学は、情報分野、エネルギー分野、人工衛星分野などきわめて多くの分野で、セキュリティーの技術手段にかかわっている。

電気工学に関わる者は、産学官いずれの立場にあろうとも、多くの難しい課題をかかえる来るべき21世紀において、人類社会全体にとって、あるいは国家や国民にとって安全にして持続可能な将来を築くため、一層の成果を上げていかれることを念願したい。